



吉野 さくら日和 (校長室より)

令和6年5月7日発行

吉野さくら学園

校長 山田 真路

No. 3

4月22日(月)～26日(金)に、家庭訪問させていただきました。短い時間ではありましたが、お話しさせていただくことで家庭と学校とのつながりを深めることができたのではないかと考えております。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

また、4月27日(土)の授業参観、PTA総会、専門委員会にご参加くださり、ありがとうございました。新しい学年、教室での子どもたちの様子はいかがでしたか。学校でのあらゆる教育活動を通じて、子どもたちに力をつけていきたいと職員一同がんばっていきます。保護者の皆様のご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

今年、吉野さくら学年は、施設一体型の小中一貫教育校として開校して3年目になります。この通信が第3号であることもふまえて、今回は「3」に関わる話を少しいたします。

「仏の顔も三度まで」「三度目の正直」「二度あることは三度ある」「三顧の礼」など、「3」に関わることはたくさんあります。「3」には、特別な力でもあるのでしょうか。このあと、理屈っぽい話になります。ご容赦ください。

プロ野球の試合では、同じ対戦相手との三連戦が組まれています。このことをよく知っている方は、これを思い浮かべるとわかりやすいでしょうか。○は勝ち(成功)、●は負け(失敗)と考えましょう。

1回目	2回目	3回目	成果
●	●	●	① ●が三つ
●	○	○	② ●が一つ
○	○	○	③ ●が一つ
○	○	○	④ ○が一つ
○	○	○	⑤ ●が一つ
○	○	○	⑥ ○が一つ
○	○	○	⑦ ○が一つ
○	○	○	⑧ ○が三つ

左の表で、1回目から2回目、3回目へと矢印をたどっていきましょう。

①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧をそれぞれ比べてみましょう。3回目に○となった②、④、⑥、⑧の成果が、大きく伸びていることが分かります。

①と②を比べたら、3回目が○になることで●を一気に二つも減らせます。⑦と⑧を比べたら、3回目が○になることで○を一気に二つも増やせます。

③と④、⑤と⑥を比べてみると、0を基準に考えたときに、○が一つ残るのか●が一つ残るのか、結構大きなポイントになりますね。

3回目に○とすることは、大きな意味があるようです。

今年度3年目を迎える吉野さくら学園。ぜひとも○を、みんなの力で手中に収めたいものです。

しかし、○という成果を手中に収めたいがために、吉野さくら学園にとって良いと思われること、あれもこれもと手を出してしまえばみんなが疲弊してしまうことでしょうか。これまでの取組をしっかりと見直し、活動の精選をして、みんなが前向きな教育活動のできる吉野さくら学園3年目にしたいと思えます。

精一杯の活動を進めた結果、●になることもあります。結果は変えることができませんが、○を追求して精一杯取り組んだ日々の道のりは、しっかりとした財産として、一人ひとりの力となっていることはまちがいありません。これらの力は、次の○を手に入れるための活動に、すぐにでも生かすことができるでしょう。結果とともに、結果にいたるまでの道のり(プロセス)も大切にしたいものです。

5月 ～さわやかなあいさつを交わしましょう～

小学校の全校朝会で、児童会からあいさついっぱい学校にしましょうとの呼びかけがありました。今は、朝の時間に有志が靴箱のところであいさつ運動を進めています。私は朝の時間、バス誘導のために南門で立っています。歩いて登校する河原屋分団や自転車通学の中学生とは直接あいさつを交わせるのですが、バス通学の人とはあいさつを交わせません。そこで、小学校全校朝会の際に、バス通学の方は、座ったままで校門のところに立っている私に手を振ってくださいね。それが、あいさつになります。と呼びかけました。

その後…。登校時は20人前後ですが、下校時は80人前後が手を振ってくれています。私も負けじと両手を大きく振って応えています。

中学校の生徒会でも、あいさつで吉野さくら学園を盛り上げたいと企画をしています。以前掲示されていた中学2年生での職場体験の事業所紹介のカードには、あいさつができることが参加に必要な力の一つと紹介されているものが多くありました。各学校卒業後、社会に出ればあいさつができるということは、自分の強みの一つとなります。必要なあいさつを必要なときにできる力を身につけたいものです。

◎ 5月10日(金)に、中学1年生保護者対象の進路説明会、中学3年生保護者対象の修学旅行説明会があります。ご参加よろしくお願いいたします。